

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第1回 クリアランスレベル検認分科会 議事録

1. 日時 2003年6月3日(火) 13:30~17:00
2. 場所 (社) 日本原子力学会 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 川上(主査), 山本(正)(副主査), 山本(龍)(幹事), 井口, 池沢, 伊藤, 大越, 川崎, 黒田, 後藤, 白鳥, 杉浦, 畠山, 服部, 中田, 山名
(16名)
(代理出席委員) 高木(藤原代理), 立花(柳原代理) (2名)
(常時参加者) 箱崎(1名)
(事務局) 太田

4. 配付資料

- F8SC1-1 標準委員会 (パンフレット)
- F8SC1-2 標準委員会規程・運営内規・専門部会運営通則
- F8SC1-3 原子燃料サイクル専門部会の活動方針 (抜粋)
- F8SC1-4 原子燃料サイクル分野における次期標準案件の改訂及び分科会の設置について
- F8SC1-5 クリアランスレベル検認分科会の設置について
- F8SC1-6 標準委員会 専門部会運営通則 (抜粋)
- F8SC1-7 原子炉クリアランスレベルの算出方法と検認の概要
- F8SC1-8 主な原子炉施設におけるクリアランスレベルについて
- F8SC1-9 原子炉施設におけるクリアランスレベル検認のあり方について

参考資料

- F8SC1-参考1 クリアランスレベル検認分科会委員名簿
- F8SC1-参考2 原燃サイクル部会議事録(抄)
- F8SC1-参考3 DS161最新版(和訳)
- F8SC1-参考4 原子力安全委員会における一般意見
- F8SC1-参考5 クリアランス廃棄物の区分に必要な事項
- F8SC1-参考6 原子力学会クリアランスレベル検認分科会における標準のスコープの考え方(案)
- F8SC1-参考7 原子炉施設からのクリアランスレベル検認及びクリアランス行為のイメージ(例)
- F8SC1-参考8 原子力学会 標準委員会 クリアランス分科会 今後の工程(案)
- F8SC1-参考9 報告書目次案

5. 議事

議事に先立ち、事務局より委員18名中代理委員を含め全員が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 分科会委員の紹介

出席者がそれぞれ自己紹介をおこなった。

2) 標準活動について

事務局より標準活動、規約関連の説明を行った(F8SC1-1, 1-2)。

3) 役員選出

a) 事務局からの主査等役員選任方法の説明の後、出席委員全員による無記名投票が行われ、以下の結果となり、川上委員が主査に選出された。

投票結果; 川上 委員 得票 16票

山本(正) 委員 // 2票

b) 川上主査より、山本(正)委員が副主査に指名された。

c) 主査、副主査の協議により、山本(龍)委員が幹事に指名された。

4) 人事について

事務局より、箱崎 健一氏(トランスニュークリア)、織田沢 正典氏(日本原子力発電)から常時参加者としての申し出がある旨の報告があり、両氏を常時参加者とするのを承認した。

5) 経緯の説明

事務局より「原子燃料サイクル専門部会の活動方針」の説明を行い、本分科会では、基本的にここに示された「ク

リアランスレベル検認分科会の設置について」に沿って活動を行っていく旨が述べられた (F8SC1-4, 1-5)。

6) 標準化の進め方について

a) 原子炉クリアランスレベルの算出方法と検認の概要

大越委員より、我が国におけるクリアランス関連の現状についての説明があった(F8SC1-7)。本説明は、F8SC1-8とF8SC1-9の概要である旨の説明があった。

b) 原子力安全委員会における一般意見

黒田委員より、クリアランスに対する一般意見の紹介があった(F8SC1-参考4)。

c) クリアランス廃棄物の区分に必要な事項

黒田委員より、クリアランス検認の概略手順と本分科会で議論すべき事項についての説明があり、以下の質疑があった(F8SC1-参考5)。

- ・クリアランスレベルと物品持出し基準は、基準となる線量が異なるし、一方が他方を包含する関係にもなろう。議論が必要。
- ・核種による包含関係の違いも考慮する必要がある。
- ・検認のあり方(F6SC1-9)では、管理区域外へ持ち出す際には満足されているとのことで検認手順に加えられた。
- ・クリアランスレベル報告書(F6SC1-8)で、一部、密度基準があるが。
- ・それでは、持出し基準がクリアランスレベルと整合してはいる。
- ・検認のあり方(F6SC1-9)では、局在汚染がないことの担保としても活用している。
- ・局在汚染の担保は対象物によっても変わるし、手間がかかりすぎるのも非現実的である。
- ・色々ご意見があるので、物品持出し基準との関係については、後ほどの回で議論することにしたい。
- ・「非放射性」の扱いは、本標準の対象外か？
- ・「非放射性」は、次回にでも内容を紹介することとしたい。「非放射性」を含めるかどうかはどうかでしょうか。
- ・全体図としては、載せて置いた方がよい。
- ・「非放射性」は事前調査だけでもって証明でき測定が不要になるケースなので、この全体像の中に包含できる。
- ・「非放射性」の測定方法は。
- ・測定での証明は難しい。
- ・「非放射性」は、基本は論理的に放射能が無いことを示すもの。ただし、念のために測定された例はある。

d) 分科会の標準スコープ

黒田委員より、本分科会における標準スコープの考え方についての説明があった(F8SC1-参考6)。本分科会設立に関する原燃サイクル部会での(F8SC1-参考2)要望に沿った方向でまとめて行きたい旨の説明があった。

e) クリアランス検認行為のイメージ

黒田委員、中田委員、後藤委員より、具体的な検認イメージの概要説明があり、以下の質疑があった(F8SC1-参考7)。

- ・評価の安全裕度で、測定誤差の設定根拠は。
- ・サーベイメータの測定で、多数回測定による誤差と、時定数から評価した誤差の双方を評価し、大きい方を採用した。
- ・30%程度の誤差は、正味の統計誤差相当ではないか。
- ・例で挙げられたネット値は、BG変動を考慮して有意か。
- ・今回は、例であるので保守的に評価した面もある。今後、検討を加える。
- ・クリアランスレベル相当の低濃度サンプルなので保守的にした面がある。

7) 今後のスケジュールについて

黒田委員より、本分科会で議論すべき事項のスケジュールと報告書目次案についての説明があり、所定の期間で結論を出すべく、確認がなされた。(F8SC1-参考8, F8SC1-参考9)。

6. 次回の予定

第2回分科会は、7月22日(火)、13:30から開催することとした。

以上